

## 耳鼻1：耳科学（耳鳴、難聴含む）

日時：9月24日（木） 1時限

担当者：池園 哲郎(耳鼻咽喉科)

内容：

上記の授業において以下の項目について重点的に解説する。

1. 上記の授業において以下の項目について重点的に解説する。  
慢性中耳炎；真珠腫性中耳炎；中耳炎合併症；耳硬化症；その他の中耳疾患
2. 顔面神経疾患  
中枢性麻痺；  
末梢性麻痺；Bell 麻痺、Hunt 症候群、他
3. 問題演習

参考書：

- ◆ 新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座第1巻 内耳，メジカルビュー社 とてもわかりやすい本です。
- ◆ 次に、YouTubeで見ておくべき動画を列記します。  
手術で治す耳の病気～真珠腫性中耳炎・耳硬化症・人工内耳～  
<http://www.youtube.com/watch?v=rEdCWM4ff3w>  
My Bell's Palsy Story <http://www.youtube.com/watch?v=-RRWM8xducY>

準備：

4年生のヒトの病気・感覚器における、耳疾患（外耳、中耳、内耳、後迷路疾患）と顔面神経疾患の部分を復習をしておくこと。

## 耳鼻2：鼻科学

日時：9月25日（金） 4時限

担当者：細川 悠(耳鼻咽喉科)

内容：

1. 鼻・副鼻腔の解剖
2. 鼻・副鼻腔の生理・機能
3. 鼻科症候学・診断学
4. 鼻科検査法
5. 鼻科プライマリー医療・救急医療
6. 主な鼻・副鼻腔疾患の診断・治療
7. 最近の医師国家試験問題の出題傾向と対策

ポイント：

1. 確実な医学的知識と論理的な思考から鼻科疾患を理解しよう。
2. 症候から鼻科疾患を整理して理解してみよう。そして、まず、主な疾患名を覚えよう。
3. 基本的な鼻科疾患のプライマリーケア、救急医療の実際を学び、対応法を身につけよう。

キーワード：

副鼻腔の特徴と開口部、嗅覚、鼻の機能、鼻漏、鼻閉、眼球突出、頬部腫脹、一側性副鼻腔陰影、副鼻腔骨破壊像、鼻出血、顔面外傷、慢性副鼻腔炎、乾酪性副鼻腔炎、術後性頬部嚢胞、鼻アレルギー、上顎癌

教科書：

- ◆ 切替一郎原著 新耳鼻咽喉科学（南山堂）

準備：

最低限、教科書で鼻副鼻腔の解剖について予習。

### 耳鼻 3 : 頭頸部腫瘍

日時 : 9月25日(金) 5時限

担当者 : 中平 光彦(国七 頭頸部腫瘍科)

内容 :

頭頸部癌のリスク因子が説明できる

- ◆ 頭頸部癌の代表的発癌ウイルスについて述べるができる
- ◆ アルコール、喫煙の関りを説明できる

ステージ分類と TNM について理解できる

- ◆ 早期癌、進行癌を区別できる
- ◆ 治療方針の違いを区別できる

口腔癌、上顎洞癌、上咽頭癌、中咽頭癌、下咽頭癌、喉頭癌について特徴を述べるができる

- ◆ それぞれの癌の主な治療について述べるができる
- ◆ 治療後の機能障害や解剖学的変化が理解できる

唾液腺癌、甲状腺癌の特徴を述べるができる

- ◆ 代表的な診断法、術後合併症を述べるができる

頸部郭清術について理解できる

- ◆ 頸部郭清術のコンセプトが説明できる
- ◆ 頸部郭清術で切除可能なものを挙げるができる

頭頸部癌における放射線治療の役割を述べるができる

- ◆ 放射線治療が効果的なタイミングを理解できる
- ◆ 抗がん剤との同時療法についてその意義を説明できる

キーワード :

TNM 分類、頸部郭清術、発癌因子、喉頭全摘術、代用音声、集学的治療

D-14 耳鼻・咽喉・口腔系、D-14-4) 疾患、D-14-4)-(2) 腫瘍性疾患

教科書 :

- ◆ Success 耳鼻咽喉科 p129-138, p174-178, p197-199, p228-235
- ◆ 新耳鼻咽喉科学 南江堂 2013 年 第 11 版
- ◆ 新臨床腫瘍学改定第 4 版 pp334-339

予習 :

- (15 分) 解剖書で頭頸部解剖を理解する
- (15 分) 4 年時の頭頸部腫瘍の講義ノートを振り返る
- (30 分) 教科書該当ページを読む

復習 :

- (30 分) Uptodate : 「頭頸部癌に対する治療の概要」を読む

### 耳鼻 4 : 口腔・咽頭学、喉頭科学

日時 : 9月28日(月) 5時限

担当者 : 大木 雅文(総セ 耳鼻咽喉科)

内容 :

1. 口腔・咽頭・喉頭の発生と異常、解剖
2. 口腔・咽頭・喉頭の生理、検査法
3. 口腔・咽頭・喉頭疾患の一般症状と治療

ポイント: 国家試験の出題に占める割合は 2-3% であり効率よく学習する必要あり。口腔咽頭喉頭の持つ特性から、必須項目としての上気道における救急初期診療(扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎)がある。臨床問題として外来異物の進入路における感染症や味覚などの特殊感覚症候、および唾液腺疾患が頻出である。また昨今の高齢社会における問題点として嚥下障害や誤嚥性肺炎に関する事項も増加している。

1. 口腔・咽頭・喉頭の発生、解剖について理解する。
2. 口腔・咽頭・喉頭の生理、検査法について理解する。
3. 口腔・咽頭・喉頭疾患の一般症状と治療について理解する。

**キーワード：**

舌、唾液腺、上咽頭、中咽頭、下咽頭、喉頭、咽頭粘膜、口蓋扁桃、咽頭扁桃、唾液の分泌、味覚、構音、発声、呼吸、嚥下、共鳴、急性扁桃炎、溶連菌感染症、扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎、病巣感染症、伝染性単核球症、EBウイルス感染症、インフルエンザ感染症、嚥下障害、誤嚥性肺炎、声帯ポリープ、反回神経麻痺

**教科書：**

- ◆ 新耳鼻咽喉科学

**準備：**

口腔・咽頭・喉頭(含む：唾液腺・脳神経)の解剖と生理を頭に入れておく(20分)。最新医師国家試験の口腔咽頭喉頭領域問題の検討(20分)。正解のみを考えるのではなく、問題作成者の意図を理解しながら自分ならどういうところが問題なので自分ならこういう問題を作るという視点を持つ。